

杉並区立高井戸第二小学校

平成30年度学力調査等の結果について

学力向上担当主幹 野田 隆嗣

平成30年度の学力調査等の結果をお知らせいたします。杉並区の「特定の課題に対する調査」は3～6年生が対象です。3年生は国語・算数の2教科、4・5・6年生は国語・算数・理科の3教科で実施しました。都の「児童の学力向上を図るための調査」は5年生が対象で国語・社会・算数・理科の4教科です。国の「全国学力・学習状況調査」は6年生が対象で国語・算数・理科の3教科で実施されました。また、それぞれの調査において、「学習・生活についてのアンケート」も行いました。

1 国「全国学力・学習状況調査」結果(正答率)

6年	国語A(主に知識)			国語B(主に活用)			算数A(主に知識)			算数B(主に活用)			理科		
	本校	都	国	本校	都	国	本校	都	国	本校	都	国	本校	都	国
	79	74	70.7	66	57	54.7	77	67	63.5	68	55	51.5	69	62	60.7

2 東京都「児童の学力向上を図るための調査」結果(正答率)

5年	国語		社会		算数		理科	
	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都
	74.4	65.5	73.5	69.3	61.5	52.4	72.6	69.6

3 杉並区「特定の課題に対する調査」結果(正答率)

杉並区の「特定の課題に対する調査」は、杉並の子どもの学力の実態をもとに、区全体で定着が不十分な傾向がある領域に重点を置いて行った学習状況調査です。そのため、国・都の調査と比較してかなり難易度が高く、正答率が低くなっています。

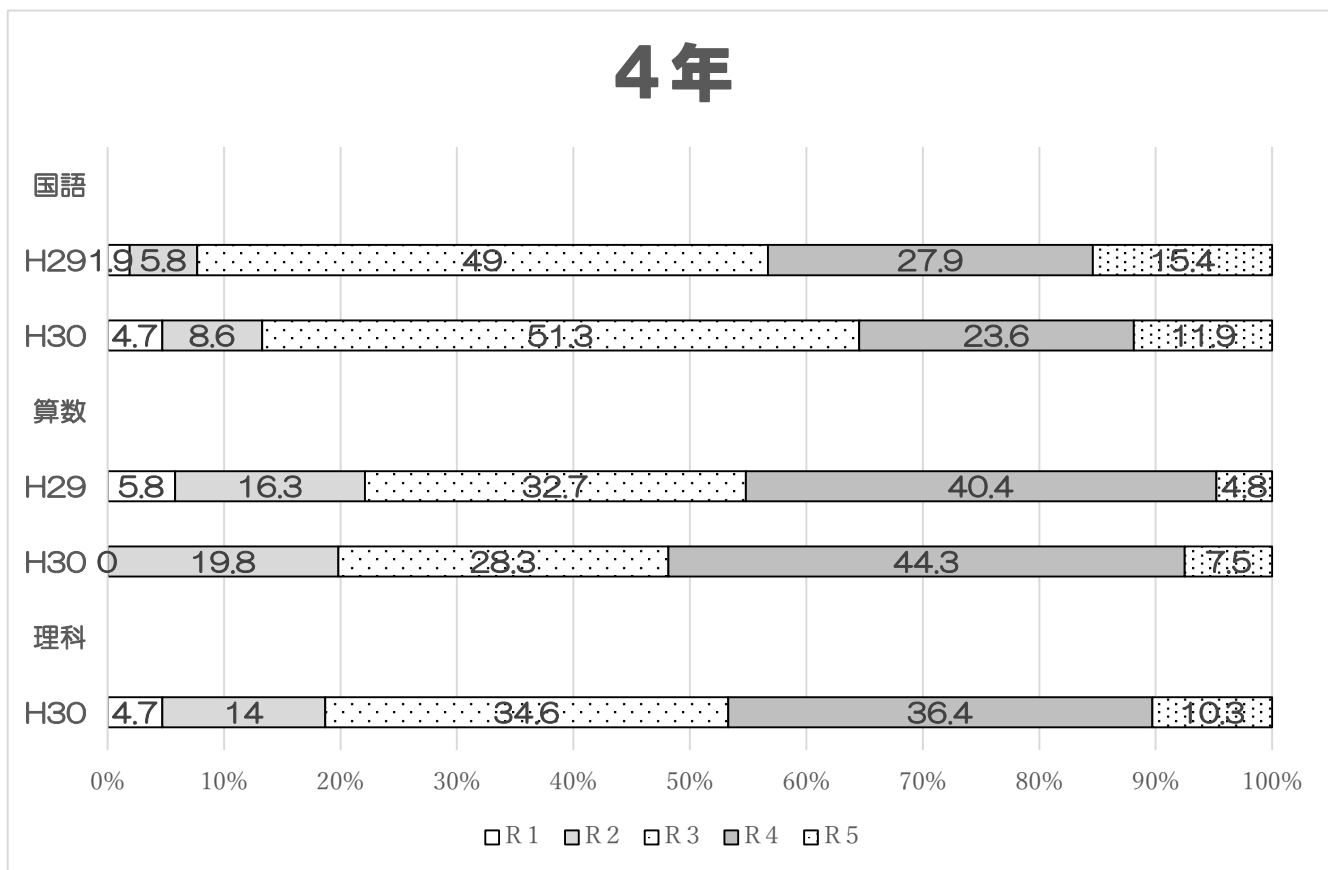
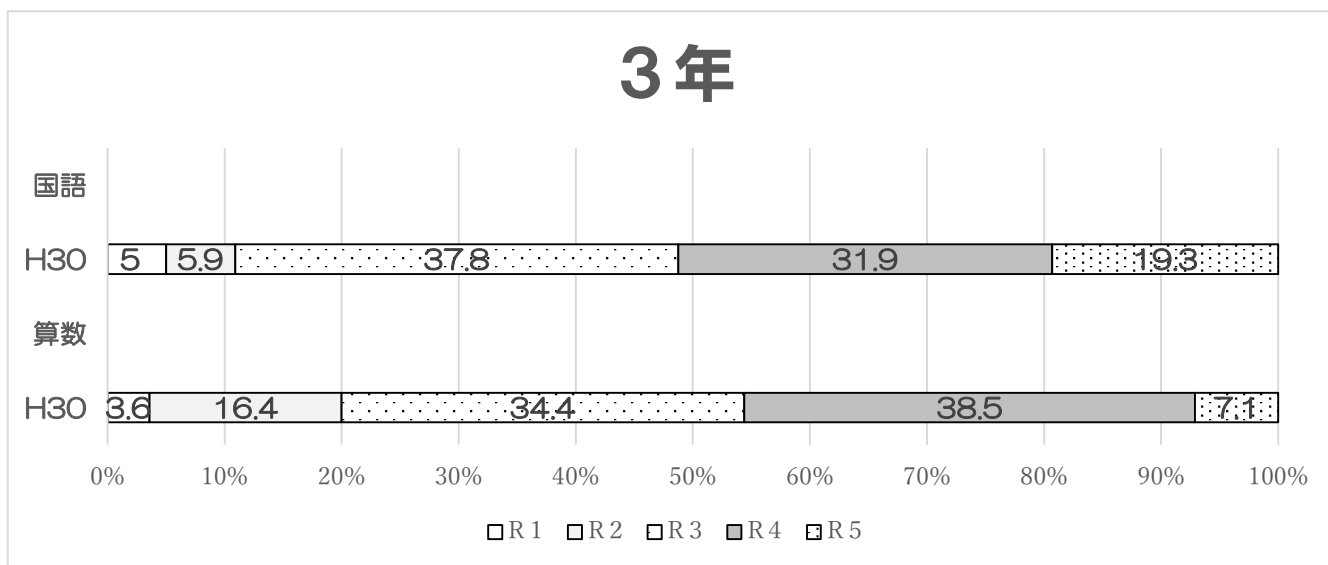
	国語		算数		理科	
	本校	杉並区	本校	杉並区	本校	杉並区
3年	57.0	54.7	67.2	66.2		
4年	59.7	55.9	68.8	65.1		
5年	65.9	64.3	65.2	64.6	66.4	65.4
6年	70.2	67.4	65.2	62.1	65.2	63.3

国や都・区の調査結果を見ると、全ての学年・教科で平均を上回っています。本校の児童の学力は中間的な位置より若干上位にあるのではないかと推測されます。

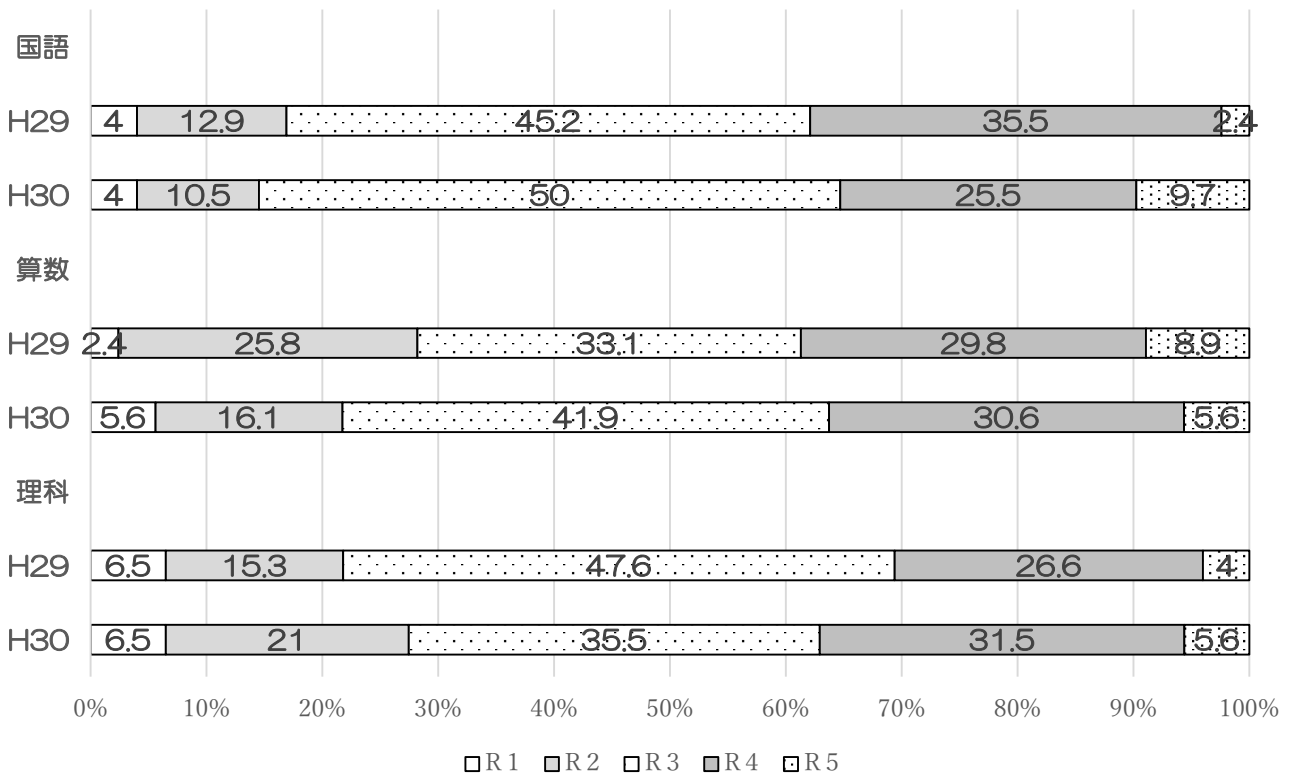
4 区の調査における各学年の学力と経年変化(平成29年度と平成30年度の比較)

杉並区特定課題調査では、結果に応じて R1(学び残しが多い段階)、R2(特定の内容でつまずきがある段階)、R3(おおむね定着がみられる段階)、R4(十分定着がみられる段階)、R5(発展的な力が身に付いている段階)の5つの層に分かれます。平成29年度と平成30年度の結果について、経年での比較を表にまとめましたのでご覧ください。

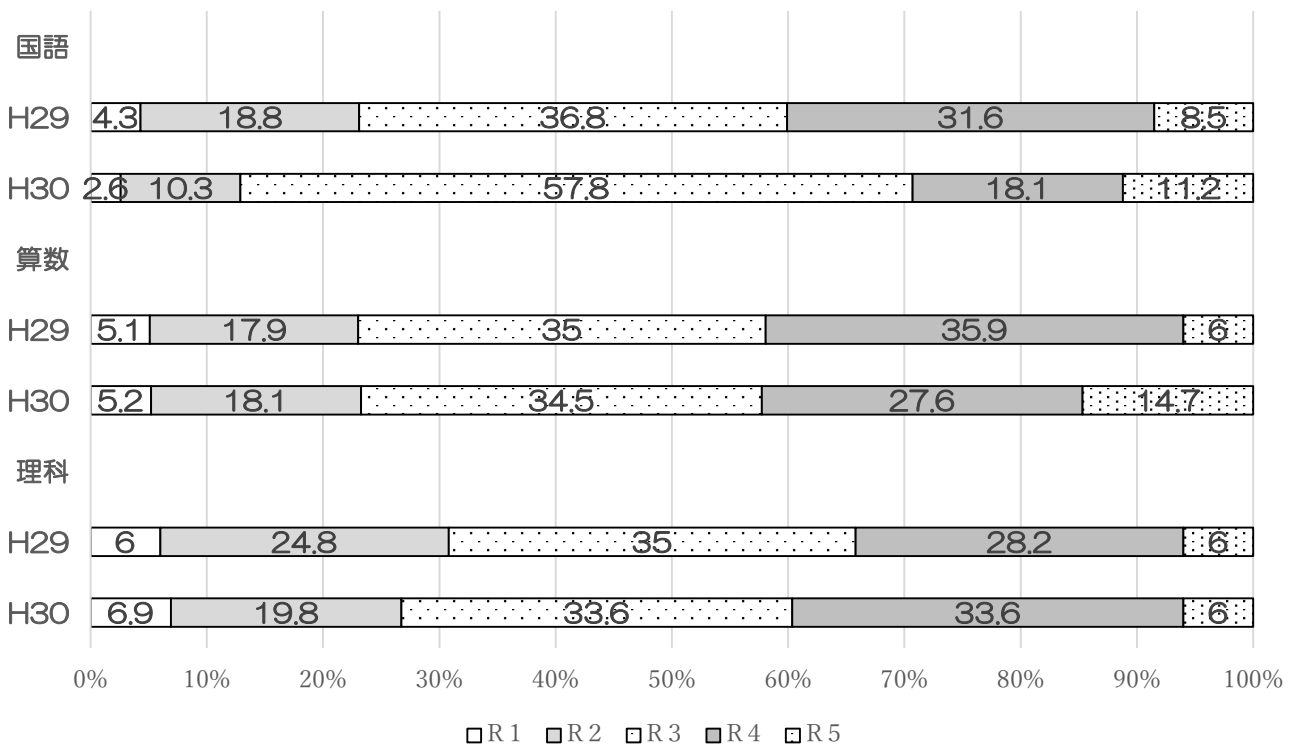
※同じ集団の経年での変化を読み取れるよう、「平成29年度」には、当該学年が前年度に受けた調査の結果を載せています。3年生は、昨年度2年生時は調査を実施していません。4年生は、昨年度3年生時は、理科を実施していません。



5年



6年



【国語】

どの学年も、R1、R2層に入る児童の割合が、15%未満となっています。85%以上の児童が「おおむね定着がみられる段階」であると言えます。これは、区の平均と比較しても高い数値となっており、本校の学力が比較的上位に位置することが分かります。また、平成29年度と比較すると、5、6年生において、R1、R2層に位置する児童を減らすことができました。少しずつですが、学力の底上げが進んでいることが分かります。ただ、4年生においては、R1層、R2層でそれぞれ約3ポイントほど増加していることから、国語に対して苦手意識をもつ児童が微増していることが読み取れます。

【算数】

どの学年も、80%程度の児童が「おおむね定着が見られる段階」以上に位置しており、こちらも区の平均よりも高くなっています。6年生では、昨年度と比較してR1、R2、R3層でほぼ横ばいとなっていますが、R4層が減っている分、R5層の児童が増加するなど、学力の高い層で、さらに学力が伸びていることがわかります。5年生では、R2層の数値が10ポイントほど下がっており、その分R3層の数値が増えていることから、特定の内容についてのつまづきを克服できるようになった児童が増えていることがわかります。ただ、R1層の児童も3ポイント増えていることから、学力の二極化が若干進んでいるといえそうです。4年生においては、R1層の児童が0となっています。算数を特に苦手にしてきた児童が、1年間で成長していることがわかります。

【理科】

1ページ目にあるように、区の平均よりは高い数値ではあるものの、5、6年生では、R1、R2層の児童を合計すると約27%の児童が位置しています。そのため、国語、算数と比べると、苦手意識のある児童が多いということがわかります。5年生では、昨年度と比べてR3層が減っている反面、R2、R4層がそれぞれ増えています。算数同様、5年生では、理科でも学力の二極化が始まっていることがわかります。6年生では、R2層の人数が減り、R3層が横ばい、R4層の人数が増加しています。中間層で、昨年度より学力が上がってきていることが読み取れます。

【まとめ】

本校では、学校経営方針の柱の一つとして、学力の向上を挙げています。特に、R1、R2層に位置する児童の学力を底上げし、学び残しのある児童を減らすことを目指してきました。

算数では、R1、R2層に注目すると、6年生では大きな変化はないものの、4年生でR1層の児童を大きく減らすことができました。5年生では、R1層が増えてしまいましたが、R2層は10ポイント減らすことができ、R1とR2の合計でいうと、7ポイント程度減っています。

本校では、算数の学習を習熟度別で進めています。そのため、それぞれの児童が、比較的自分の習熟度やペースで学習することができます。また、教員は年間を通して同じコースを担当するようにしています。そうすることで、児童を長期的に指導することができ、課題や苦手なこと、得意なことをより正確に見取って、指導に生かすことができます。またR1、R2層を中心に、学習ボランティアにご協力いただき、きめ細やかな個別指導の充実を図っています。R1、R2層の児童が減っていることは、そういった手立ての効果が少しずつ表れていると考えています。今後も継続して取り組むとともに、今後は人数が増えてきている学力中位の児童(R3層)に対する手立てをさらに充実させていきます。

5 学年ごとの課題と授業改善策【国語・算数についての抜粋】

(1) 国語

	課 題	改 善 策
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと、話を聞くことが苦手な傾向がある。 ・漢字を書いたり、言葉の意味を理解するのが苦手なため、文章表現がうまくできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと、聞くことを日常的に意識させ、ペアやグループでの学習を取り入れる。 ・家庭と協力をして、漢字テストを行ったり、反復練習をしたりして、定着させる。辞書を活用して、言葉の意味を丁寧に確かめる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・読むこと、自分の考えをもつことについて、苦手意識をもっている。 ・文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすることが苦手な傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読むときに、繰り返して読んだり、内容を確認しながら読んだりすることを習慣づけていく。自分の考えを発表する機会を増やす。 ・文章を書く経験を増やすとともに、グループで読み合うなどして、いろいろな表現に触れる機会をもたせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえて読んだり、登場人物の心情を叙述に即してとらえることが不十分である。 ・自分の考えを表現することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読む際は、読みの視点を明確にしてサイドラインを引かせるなどして、目的をもって読み取ることができるようにする。 ・書いた文章を読み合っって意見を交流する活動をふやす。多様な文章に触れる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・話の中心や要旨を意識して、考えながら聞くことが苦手な児童が多い。 ・自分の考えを表現することへの苦手意識があり、うまく表現することができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を取り入れ、目的を明確にして相手の話を聞く機会を設ける。 ・自分の考えを書いて表現する時間を確保し、読み合ったり感想を伝え合ったりする活動を取り入れる。

(2) 算数

	課 題	改 善 策
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力中位の児童の学習に対する意欲を高めたい。 ・区特定課題調査では、図形問題と計算問題について、区の平均よりも低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を発見したり、学び方を選択したりする経験を積むことで、より難しいことに取り組む意識をもたせる。 ・既習事項や、四則計算のきまりを再確認してから、学習に取り組ませる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題において、問題文を読み取るのが苦手な児童が多い。 ・数量の関係について考える問題で、間違いが目につく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を確認してから問題に取り組ませるなどして、「何を求める問題なのか」を正しく理解する習慣を身に着けさせる。 ・かける数とかけられる数の関係を正しく理解できるように、既習事項の確認を行う。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題が苦手である。問題場面の数量の関係を適切にとらえることができない。 ・立体の定義や平面図形の角度の決まり、面積の公式の理解があいまいである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係をとらえられるよう、数直線や線分図、図などを用いて表す機会を設ける。 ・具体物を用いて授業を行うなど、感覚的に理解できるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・小数や分数の計算など、既習事項の理解が不十分な児童もいる。 ・図形や立体の定義、構成要素(辺や面、角等)の特徴の理解があいまいである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を活用し、短時間で前時の復習をする時間を確保して、基礎の定着を図る。 ・具体物を用いてイメージをしやすくする。ICT 機器を活用して思考する活動を取り入れる。

6 学習・生活についてのアンケートより

学習・生活についてのアンケート調査は、自己意識や生活実態、学習状況の諸側面を児童が自己評価できるように設計されています。一部抜粋してお伝えします。

認知能力と非認知能力 ※本欄は『学力の経済学』中村牧子著、2015年)を参考に作成しました。
 学力調査で計測される能力を一般に「認知能力」と呼びます。一方で、「忍耐力がある」とか「やり抜く力がある」とか、「意欲的である」といった、人間の気質や性格的な特徴のようなものは「非認知能力」と呼ばれています。非認知能力は、将来の成功に大きく影響するとともに、認知能力の形成にも一役買っていることが最近注目されています。非認知能力といっても、いろいろなものがありますが、「自制心」や「やり抜く力」を早期に獲得することが特に重要とされています。

「自制心・忍耐力」に関連する質問項目(肯定的な回答をした児童の割合)

	学校で自分がまかされたことは、責任をもって取り組むようにしている。(1-7)		人の話は、最後まできちんと聞いている(1-19)		学校で出された宿題はきちんとやるようにしている。(2-17)	
	本校	杉並区	本校	杉並区	本校	杉並区
3年	▼82.2	83.8	85.7	84.8	95.8	92.8
4年	▼85.0	87.2	85.5	83.3	97.2	91.4
5年	92.7	91.7	87.8	84.7	96.7	92.9
6年	94.8	93.5	▼82.6	86.8	93.1	91.9

「やり抜く力」に関連する質問項目(肯定的な回答をした児童の割合)

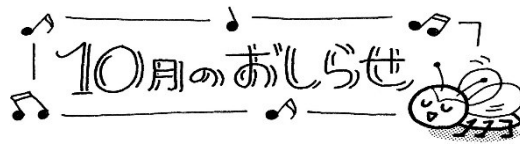
	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。(2-6)		自分は、最後までやりぬくなど根気強いほうだと思う。(2-13)		自分は努力すれば、たいいていことができるようになると思う。(2-24)	
	本校	杉並区	本校	杉並区	本校	杉並区
3年	92.4	87.4	77.1	71.5	84.7	82.3
4年	89.9	86.0	70.1	67.4	84.9	82.0
5年	93.5	92.4	▼62.9	63.9	▼77.0	80.0
6年	94.0	92.2	▼63.8	65.2	83.5	78.6

「意欲・目標への情熱」に関連する質問項目(肯定的な回答をした児童の割合)

	難しいことに挑戦することは、楽しいことだと思う。(2-10)		自分は、新しいことが分かると、次の内容をもっと学ぼうとする。(2-18)		興味をもったことは、自分から進んで学んでいる。(3-7)	
	本校	杉並区	本校	杉並区	本校	杉並区
3年	79.0	79.0	79.8	75.6	85.7	81.3
4年	▼73.6	76.8	74.5	74.5	▼82.1	83.0
5年	82.1	77.3	▼70.7	71.0	85.4	82.5
6年	81.0	76.3	80.0	73.3	89.7	84.1

※▼は、杉並区の数値より低いもの。

非認知能力は学力だけに結び付くわけではありません。生涯にわたって自分を成長させたり、豊かな人間関係を構築したり、人生のあらゆる営みの支えとなります。学校とは、ただ単に勉強をする場ではなく、先生や友達から多くのことを学び、「非認知能力」についても培う場所であるという認識のもと、全ての教育活動を通してこれらの力を高められるような取組を行っていきます。



命と平和の大切さ講演会 5・6年生

10月9日(火)5、6校時に命と平和の大切さについて講演会があります。保護者の方どなたでも参観できますので、ぜひお越しください。詳細は別紙をご覧ください。

特別支援連合運動会 久我山学級

10月11日(木)に、和田堀公園陸上競技場(済美山運動場)で開催される『特別支援連合運動会』に久我山学級の1年生～6年生の児童が参加します。

杉並区の特別支援学級・特別支援学校の児童生徒が集まって行う大きな行事です。久我山学級の児童は、全員種目の「大玉送り」「今日から友達」「ひろってあつめて(小学生)」と、個人種目の「50m走」「100m走」「400m走」に出場します。

当日は、みんなと一緒に楽しく運動することや全力で最後までがんばることをめあてに取り組みます。

第5分区連合運動会 6年生

10月29日(月)に本校で行われる連合運動会に6年生が参加します。

連合運動会とは、久我山小・高四小・松庵小・富士見丘小・荻窪小・高井戸小・高二小の7校の6年生が集まり、自己の記録に挑戦するものです。種目は、全員が記録に挑戦する「100m走」、代表選手で競う「100m×4リレー」「800m走」「走り幅跳び」「走り高跳び」、学級の記録に挑戦する「長縄」があります。他校と競い合うことを通して、親睦を深め、自分の記録を伸ばすことや体力の向上を目指しています。

高二小の代表として、一致団結し、素晴らしい記録が出せるように指導していきます。

第5学年富士学園移動教室

9月19日(水)～21日(金)の3日間、5年生は富士学園へ移動教室に行ってきました。今年の移動教室でのテーマは「全力・協力・考動力」。学年集会では移動教室に行く意味を考えることから始まりました。事前に係ごとに仕事に取り組み、移動教室中は責任をもって行動していました。学園の生活の中で集団行動の大切さに気づき、仲間とともに過ごすことの楽しさを実感できた3日間でした。これからの学校生活にも十分に活かし、さらに成長して行ってほしいと考えています。

10月の生活目標『友だちと仲良く遊ぼう』

例年になく暑い夏も終わり、外遊びには絶好の季節になりました。天気の良い日には、友だちと声をかけ合って、広い校庭で思い切り体を動かして遊ぶよう指導します。新鮮な空気の中で過ごすことは、身体にとってもよく、また、友だちと遊ぶことにより、コミュニケーション能力も培われます。校庭で遊べない時には、室内遊びのルールを守らせ、教室で友だちと仲良く、落ち着いて、安全に過ごせるようにしていきます。